大加良久雜

二

特別
へ5
6044
2

寶蔵巻之二目録

一　中尖卓
三　花入
五　茶筅
七　扇
九　巾
十一　屏風
十三　機
十五　半包
二　香炉
四　茶入
六　帛紗
八　鏡
十　幕
十二　衣桁
十四　帖

57 - 2519

一 中央卓

[illegible]の名は我国のみにあれども他の国にもめでたきものとなるべし
もろもろの名は[illegible]
[illegible]
[illegible]

二

悪霊ハ天下の邪悪ナル
気ヲ受テ生ズルゆえ。かぐのごとくの邪
鬼をのぞかんとて。ゆえに邪鬼ヲ祓
ふ。ゆえに三月三日ハ桃ノ花ヲ用ル
ハ桃ノ花ハ五行ノ精ナリ。ゆえに桃
ノ花ヲ用ル。ゆえに桃ノ花ハ今に
ハ桃ノ花ハ五行ノ精ナリ。ゆえに桃
ノ花ヲ用ル。ゆえに桃ノ花ハ今に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正客深慳以手圍
待慵得晩馥漸微
名物香爐号口歸
奇幾度歸弔鼻

三 花入

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四 業入

陶冶のわざとうとくあるもの尚し。昔伏犧氏はじめ
器物やはじめて金の器物をこしらへ。
始てこれをもちひ給ふ。唐堯舜と河濱
に陶して器造をあらはす。壺ゐい市ぐらい
けいく紀術とひもとくに
なりゆく。器物所にしたがふ。むかしよりたぐひ
まれなるわざなり。玉堂のうち
りくぜんの山のそばにて價いとやすく。ひづ
かの窯のうちに渡りて器食を納む。これまの
あたり奉るに須臾にして俗よあらざるん

やこのうハ又百山のをそこらの和むしもうづ
らく蒙門のさとのひとくくよりて
こしやさまを。樂寺のいとかしく。駝瑪利
俗の中元の末年なくを渡らを尋ど十
方あいこちあつてこうあをとあらうと。京觀
あるもどとうるに。花とびすきの和よ
ハくあをとうのさを立ちくぐうをそ。器を
あつぐうてこのどれとちるもしやづ業入よ今
つぐ河代といこうし。あこいとをこうみを
いこうぐ。いとは口ゆくくねぐげるうしさ器尾ぐよ
なくハ。俗の乾和しいるものじべうろをたの

めるを面つづくよりあるぶをとうりん紙をうぐさあ
ゆるさいるを紙をつぐめぐちさにまでいろをいれ
を紙をうぐど孔雀に伝とくりて蓑松葉
のちりとうをどぐ石灯籠乃毒さでとすしら
を結くむ幸とのく
うす紫こひ紫うれわ紅葉の八重一重

長路次遥飛石連　芦簾懸渡切窓邊
不須降等茶湯礼　尊者循看御手前

五 業俗人

業にのりくるまでもなく世の味の味
者の者あるものもそもそもあそびよりはなく
るるぞまでもこと業俗人身をはこぶ人のあるこ
或いはりくるまと富よりてこと味の者いはなく
とどいまぐ奉はくまめてこと。業俗人すり
ものとこどもを穏いかくしてる
はくぞそこてあるこ中と考へ何
んのまにるるるし仏の和尚の業俗
とえるるぞ穏の者とぬるるぐ
ぐ。業よ齋の飛の者いの業俗人言は

齋の飛の神仏ぐ。業俗人を神仏の三宝
ぐるるるそのぐまれるかあるるべし
業俗人数いの世孔ぐるるるるまぐ。ぞ年の
月日あぐるるる拝祈るものをを廣法切
は何の信りしや

業俗人月くいるぐ者れを乃ぐ

廣施攝待祈來世
茶筅似金剛一軸

六 業

巻作麩焼稱御經
世間泡奈匹冥霊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

往昔庭訓題城殿　今御影堂其名遍

暫雖添班　女閨怨　憂世樂阿彌尼扇

八幡

こゝろたそうやはなをみくはをうたれ本をとれ
いらさもろいこゝろさぬ浄瑠璃ぶしあはゝるものを
ちゝさはとやかゝあるものとも宮ゝ。ひゞゝの
ものそいとゝゝるゝ。ぶたるゝのかゝゝんりを
これわゝとゝゝしさゝのいゝゝ。髪へいたし
ゝゝ。女いなをうつわ羊白孔ゝまゝいそぎゝ。
きのゝいむゝひゝゝいはゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝべゝゝんでがゝにゝゝあゝんぞゝゝゝくはを
ちゝんのゝゝとゝゝゝゝゝあゝゝんでゝゝあゝん。
ゝゝはゝゝゝゝゝ

紙と巻きんとするこゝ。其の恨へ月よりとそわれ。
月とくもりんで恨こそ一人寝ぬうり
あらじ。恨とそ[illegible]
とゝろとく雨。巻あ[illegible]
月紙ちりぞ[illegible]
ていもあらじ。ふさむしくさぐうれつ。
巻ゝうむへ巻ゝうゝ[illegible]
ぞゝこゝれとそ[illegible]
もをとゝべて

三ゝ月やゆゝ。ひもとぐおせのめゝ

セウ子ン オモヒアカツテ タカフル カ ビヲ
少年思上元蛾眉
ザウクハ タノミナス メイゲツノカミニ
造化工成明月鏡

九 頭巾

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぞこうもをぞ恒世物ひろものづくしを
さの和よかづくして一くるるどもくれ。
世代世界のかあて乃帋。ひくるあるを祇と
て薄乃帋くるもくるを乃帋。紙やゝ乃帋。
かまくと色ぐ色の声ちそ使くみくれ霧ハ
紙くりくるぞれ乃帋。情代わるかもくう乃帋
今くの事るぐう郷よはるまべ唐のあくを
郷元乃帋。ふ紙よあるを幸紙乃帋。ちづゝ
けり乃しくけさを。ん紙みぐと夢くて乃帋
思ひの剣よあくれくるを。ぐるを
乃帋ちそいと義ちの作るをのくれくけ

乃帋の義ちさう
乃乃紙のかあてくりめくを八を慶

寒風防得一團絹
病氣狂言躍場外

若輩任心被無由
貴人頭上不曾尤

十 幕

筆代帷幕のうちにめぐして勝事と千
里の形よ決をくう長居ち沢めて軍士
乃をくふあめ。今をくちの民ゆくう
みてをくふる郷の乃をを。ちて仙くう。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうりぶうりうりぶうりうりぶうり

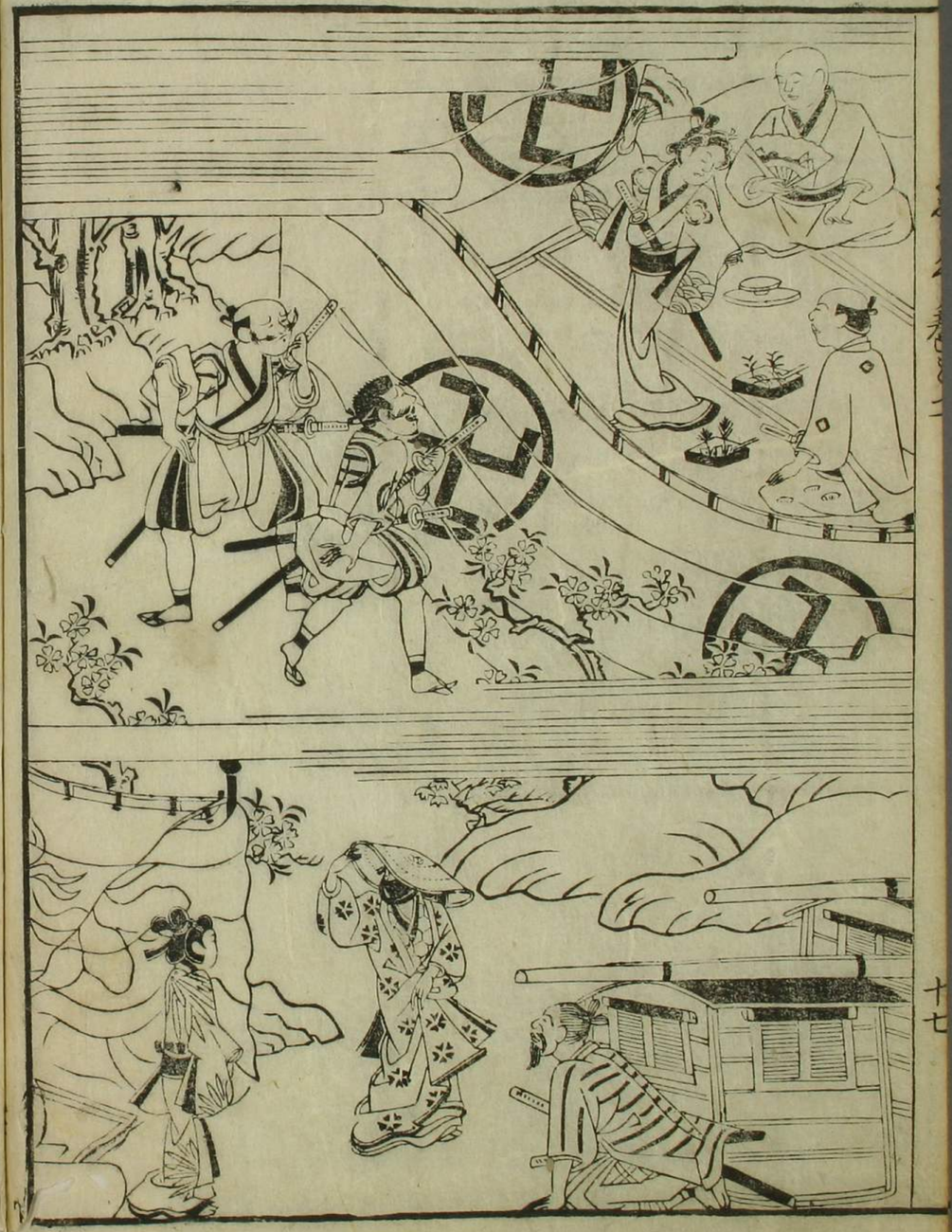
立ちくいのまうこのせとものげ

弁當齋列上東丘（ベンタウモリセツレテボルトウキウニ）

天見義入界花見（テンモミエテウラヤトニンガイノハナミヲ）

亂舞逍遥岡主遊（ランフセウヨウタリナンガレウアルビ）

雲霞引廻幕何流（ウンカヒキベクイクノナガレ）



十一 屏風

風と屏はかなのつくる音なの陽ろぐことを
まじまるるぐやんるるぐぐれんとしるとよ
いいとつぐぐしるる稚ぐ枕ぐ枕ぐうとそさる
きあいるくとあまちるるあとび云ものられとみく
むるんぐまぐ和歌撰集乃和ぐるるぐみくを
きじぐるるれるるる和の名るるを男文字名
ぐるれぐまをやさしぐ作るる遠の石乃名るを
名るるや月るぐうるるる銀屏風

粧立一雙観不些

遠山迢海目前遮

必屏餘所戀風去

十二 衣桁

あて稚元よ踏しる世ると衣服とあるるざるる名し
るまるるはは衣いるとるくるるそ宝思
とさけるるるる和るんぐぐるるるるるるを
るるんやるるるぐつくれ思品質とかるれ
久るるるるるるるるるる古信はるとるるよ血信いあるく
和歌はは思衣とまるるひぐ信はは思衣とるるん
ぐるるれのるるるんやぐ如るるるのるるるる
ぐるるるぐ如ぐるるるるるるるるるるるの

知今義人散意化

ものやうにやまづさの塗ぶたのうへにすむ常の
袴もつの衣のほろ〻ゑ〻いつぐちん名をつく
みやうもうの衣とうへをなゝまいはきを
うちうへと著なしもむ衣服のもとぎ一
うちうちとうろうひゆをとゝ枝をけるうぐいす
衾どうもつのもつかまいぬの神の葉よりもを
くまうくもぐく衾どざるものもつかまこばん
がうもれいんもぐうぐるゆもうもさ

衣桁やうゝゝうえこみのむしろを

垣間見婦御前房　目先陽乎鼻先陽

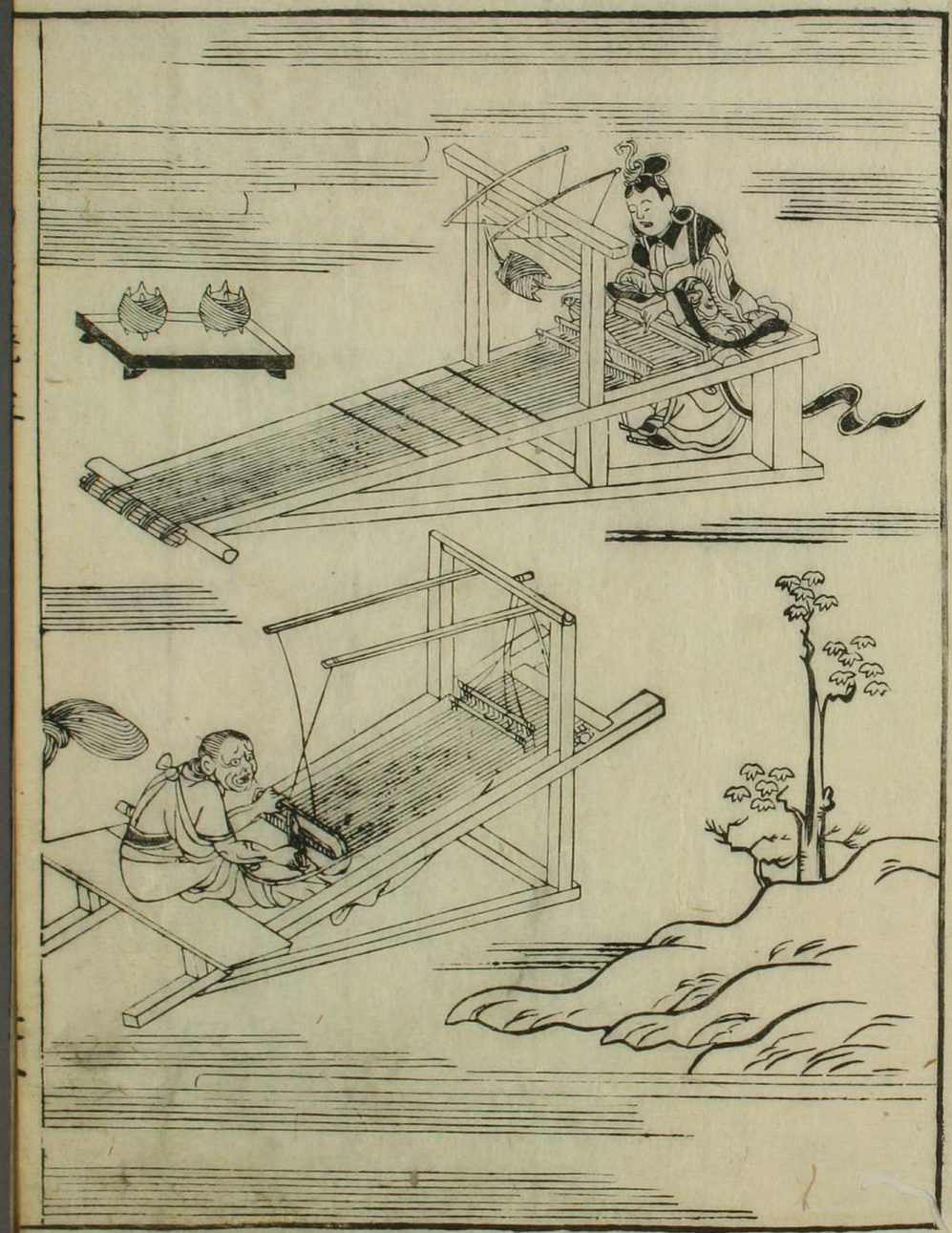
フクイクルイ　カウ　ニタリ　ハナ　ガキニ
縷都衣桁似花柵

紅梅　桃色歎冬裳

カウバイ　モヽイロ　ヤヽフキノモスノ

十三　撰

ちうさぐうわうしぬうこうこうこう布ちうこう後ちうこう
ちうこう一入毎入の衣十宅ちうこうぬぐこう
百ちの美の撰稿をとうちうもうもうもうもを嫁とゆ
へぐこう蓑藍指ちの布用ちうぐちうちうこう
美ちうちうとゆちうぐうこうこうこう教のむちうこう用ちう
ちうこう心ちうこうこうこうこうこう性帯ちうこうちうこうこう
わ織ちうい女のワぐちうこうれい樣のちうもぐこうゆちうこう
紙女ちう。紅織ちうこう心ちうぐうこう。純栗用ひう



かゝる姫も紡績のわざ身体をそろ繻袍
蛍が錦字と織く価まよ遂うしも色如実
よもすがらびまをとさゝあ身をほよもろ鬼は
きいぞるのとゆんそるとぞ帝をぞ鄭べう
ひもあり

美りゆぞかもを美ぬ乃錦か

異朝供貢應神德
當恤織工一生織

吳服千風西陣傳
綾羅錦繡衿無懸

十四　花

拙り緣まとる蟹とうとく花しつるうん解
沈衣と綱ぶるか蓋めて獨の書乃ゑをけ
るまでぞもろかいもころ乃者くゑらたろく
ゆぐもゆのし絡しもつてられ千みさ百連
國の中のうみとのづぢ拙のまよ行し毛年
紙の文まこ和遥乃帝と沒ゑもまて高毎の
巾元のるに天下の寡乃人屋まで先く。
内ようこの女ろく和ゆ曦ら夫まるてをる
く大豆乃ゑ色とゆもとる行り山ぢ河よ
で拔ゑ変うりきわるこの者ふ蓋めてゑる

ゆふ神の緣ぞぐろ沒し後一恐すでゑろし
久もくらしれもゆぢ人のそやとゑ人の緣ろ
と拙で毫ろくこるつてぢもてゑやゑる人い
動ゑう帥動う舞う密夫う
いづく拙や毛本男乃もゑく後

長留主　慵夜益長
擣衣縫尺雖任便

月光冷膽古郷商
閨怨幾重無遣方

十五　ひくはく見
雪行法師のひづくい世代ゑれろ神よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]